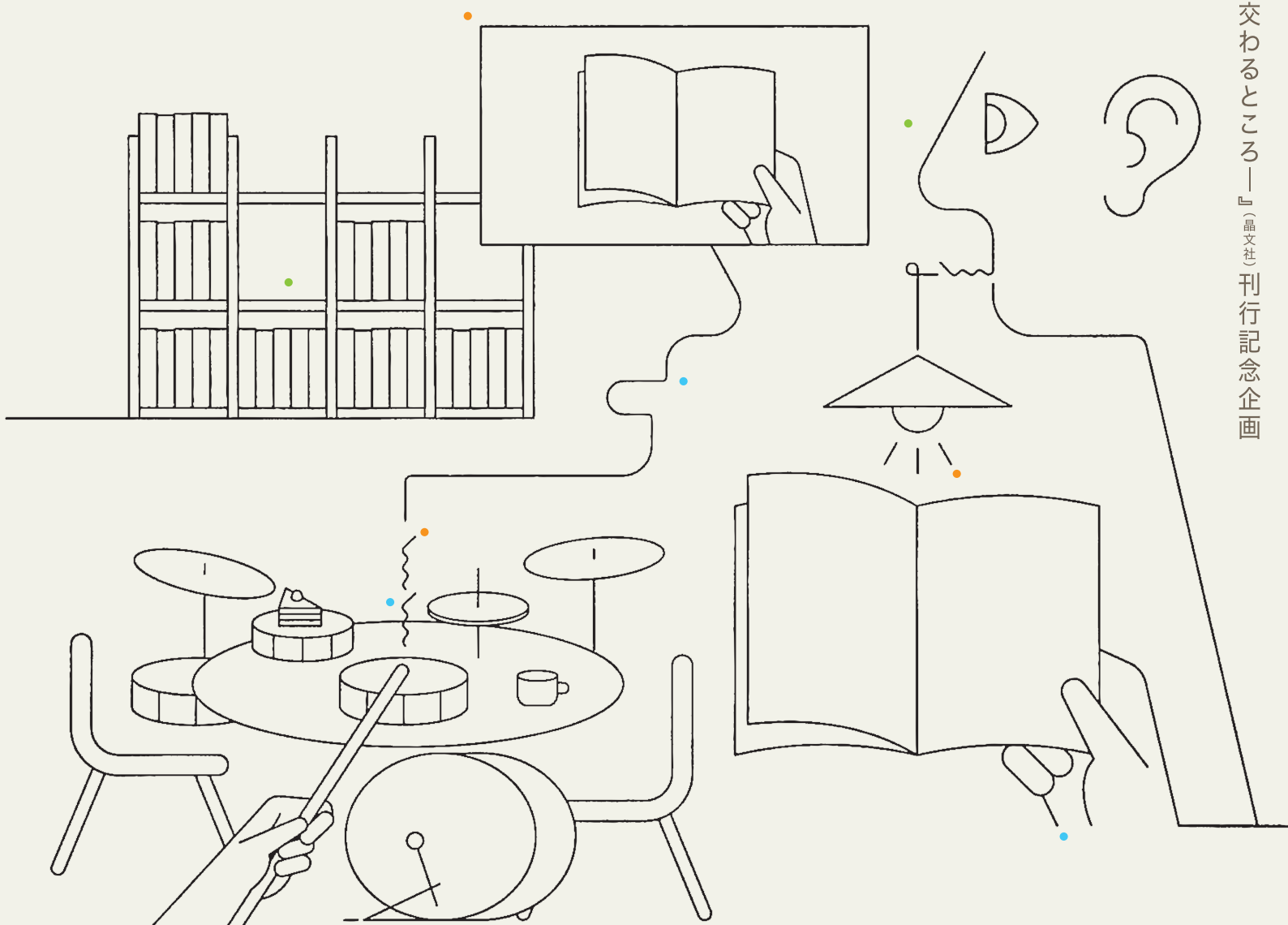


アサダワタル個展

砕け散った瓦礫の中の 一瞬の星座

A MOMENTARY CONSTELLATION
IN THE SHATTERED RUBBLE

ーリーディング、アーカイブス、ドラテブルーー



新著『当事場をつくるーケアと表現の交わるところー』（晶文社）刊行記念企画

2025

8.24 SUN

8.31 SUN

場所：本と音楽のお店・ときどきゼミ〈とか〉

〒577-0811 大阪府東大阪市西上小阪14-14
＊クリーニング屋の黄色い看板が目印

🕒 時間：12:00-20:00（※関連企画により変動あり）

📌 参加費：無料（※関連プログラムは有料・要予約）

アサダワタル個展

砕け散った瓦礫の中の一瞬の星座

ーリーディング、アーカイブス、ドラテブルーー について

“文化活動家”という肩書きを名乗り、音楽や対話を通じた多様な「プロジェクト＝場づくり」を各地で実践してきたアーティスト／文筆家のアサダワタルが、5年半ぶり・7冊目となる単著『当事場をつくる ーケアと表現の交わるところー』（晶文社）を2025年7月25日に刊行します。その刊行を記念して、自身にとって初となる個展を開催。舞台は、アサダが運営する〈とか〉。古本と中古レコードが並ぶこの空間に、“読書空間”としての展示がもうひとつのレイヤーとして立ち上がります。

本書で描かれる障害、震災、性暴力といった現実のそばに佇む人々との共同プロジェクト、その記録映像・音声のアーカイブ展示、そして“対話と演奏”をテーマにした新作の楽器兼家具「ドラテブルー」の発表と実演パフォーマンス。

ただ読むこと。ただ語ること。少し叩いてみること。

それらの行為そのものが“出会い”であり“表現”となるような時間を構想します。異なる背景を持つ一人ひとりの他者と、いかにして「不思議な出会い方」ができるか？この問いに、節操なく、しかし一貫して向き合ってきたアサダの営みの集積に、ぜひお立ち会いください。

● 関連プログラム（要予約）

アサダワタル ソロパフォーマンス & ギャラリートーク

日時： ① 8月30日（土）19:00-21:00
② 8月31日（日）19:00-21:00
会場： 〈とか〉
定員： 各回15名
参加費： 通常 2,000円 / 新著セット割 3,800円
（※書籍代より20%引き）

新作「ドラテブルー」を囲みながら、ドラマー（SjQ、越後屋ほか）／歌やメディアを用いたソロミュージシャン（大和川レコード名義）としても活動してきたアサダによる久々のソロパフォーマンス。上演後には作品の背景にまつわるトークを行います。

※展示は本プログラム時間帯中、予約参加者のみが観覧可。

前田洋太さん講演会「普段僕が考えていること」

日時： 8月30日（土）10:30-11:30
会場： 〈とか〉
定員： 15名
参加費： 通常 1,000円 / 新著セット割 2,800円
（※書籍代より20%引き）

自閉スペクトラム症の当事者であり、奈良県の〈Pieta〉代表でもある前田洋太さん。「頭の中のじぶん」と「お腹の中のじぶん」と向き合いながら、社会とつながるためのコミュニケーションのかたちを追求してきた活動の核心について語ります。

団体HP→ https://note.com/pieta_ym

※当日は講演終了後に12時より展示オープン。

● 関連プログラムのご予約

右記のQRコードにて「参加申し込みフォーム」にアクセスしてご予約ください。



● お問い合わせ・最新情報

お問い合わせは下記のメールまで。
→ toka14142023@gmail.com

最新情報はアサダワタルのHPでチェック。
→ <http://kotoami.org>

主催・演出： アサダワタル
・ドラテブルー
設計・制作： アサダワタル、安川雄基
・読書映像
ディレクション： アサダワタル
撮影・編集： 奥田峻史
・広報デザイン： 竹内公啓（PUBLIX DESIGN）
・マネジメント： 渡辺智穂、黒田つむぎ
・協力： ラジオ下神白上映委員会、Pieta、NPO法人なないろサーカス団、ながせのながや（あきばこ家）



画：花堂達之助

映画『ラジオ下神白』上映会 + アフタートーク

日時： 8月31日（日）10:00-11:30
会場： ながせのながや
（大阪府東大阪市菱屋西1-19-4 / 〈とか〉より徒歩2分）
定員： 20名
参加費： 通常 1,500円 / 新著セット割 3,300円
（※書籍代より20%引き）

福島県いわき市・下神白団地を舞台にしたプロジェクト「ラジオ下神白」。アサダが企画演出を務め、団地住民、復興支援スタッフ、ミュージシャンらと共に紡いできた音楽と対話の軌跡。その記録映画（小森はるか監督作）の上映会とアフタートーク。

映画公式HP→ <https://www.radioshimokajiromovie.com>

※当日は上映終了後に12時より展示オープン。

Pieta「親孝行カフェ at ドラテブルー」

日時： ① 8月26日（火）14:00-16:00
② 8月28日（木）14:00-16:00
会場： 〈とか〉
参加費： 茶菓子代実費（予約不要）

前田洋太さんによる、ゆるやかな「親孝行」をめぐる時間。ドラテブルーを囲み、会話とお菓子とともに、「当事場」を感じるひとときを一緒に過ごします。予約不要の自由参加型プログラムです。

● アサダワタル プロフィール

1979年生まれ。アーティスト、文筆家、近畿大学芸芸学部准教授、古書・レコード屋〈とか〉オーナー。「これまでにない他者との不思議なつながりかた」をテーマに様々な生活現場に向き、音楽と対話をもとにしたプロジェクトの企画演出、作曲演奏、執筆活動を行う。総じて自称「文化活動家」。博士（学術、滋賀県立大学）。

2002年にバンド「越後屋」のドラマーとして、くろり主宰レーベルNOISE McCARTNEY RECORDSより2枚のCDをリリース。2003年以降、サウンドユニット「SjQ」（HEADZ）のドラム担当と平行して、ソロプロジェクト「大和川レコード」始動。その後紆余曲折を経て、2010年代から国内外

の都市、福祉施設、学校、復興団地などでプロジェクト型の表現を主とするアーティストとして活動してきた。自宅を創造的に開放し他者とのつながりを生むムーブメント「住み開き」の提唱者としても知られる。

近年の主な演出プロジェクトに、「クロスプレイ 東松山 また明日も、歌ったような」（埼玉県東松山市、2022-2023）、「コロナ禍における緊急アンケートコンサート 声の質問19」（東京都足立区、2021）、「ラジオ下神白 あのととき あのままの音楽から いまここへ」（福島県いわき市、2016-2021 / 2022に音源、2023に映画化）など。主な著作に『住み開き増補版 もう一つのコミュニティづくり』（筑摩書房）、『想起の音楽 表現・記憶・コミュニティ』（水曜社）、『表現のたね』（モ・クシュラ）など多数。受賞歴に、サウンドプロジェクト「SjQ++」（ドラム担当）でアルス・エレクトロニカ2013サウンドアート部門準グランプリ、CD作品「福島ソングスケイプ」（アサダワタルと下神白団地のみなさん名義）で2022年度グッドデザイン賞など。2025年夏に5年半ぶりの単著『当事場をつくる ーケアと表現の交わるところー』を晶文社より刊行した。



『当事場をつくる ーケアと表現の交わるところー』（晶文社）
¥2,200 税込

